

浪江町津島K氏宅周辺の空間線量率

玄関前
1.31 μ Sv/h(地上1m)
1.82 μ Sv/h(地上1cm)
土壌 151,000Bq/kg



庭石そば
1.77 μ Sv/h以上(地上1m)
1.43 μ Sv/h(地上1cm)
庭石表面 11067cpm

浪江町津島K氏宅周辺の空間線量率

玄関中
0.40 μ Sv/h(床上1m)
0.31 μ Sv/h(床上1cm)



リビング
0.36 μ Sv/h以上(床上1m)
0.27 μ Sv/h(床上1cm)

浪江町津島K氏宅周辺の空間線量率

寝室①(1階)
0.55 μ Sv/h以上(床上1m)
0.35 μ Sv/h(床上1cm)



寝室②(2階)
0.53 μ Sv/h(床上1m)
0.40 μ Sv/h(床上1cm)

浪江町津島K氏宅周辺の放射エネルギー測定

梶平B氏宅入口
土壌 151,000Bq/kg
982万Bq/m²



K氏宅※庭イトヒバの木の根元
土壌 44,000Bq/kg
286万Bq/m²

表面汚染の換算はいずれも換算係数65として計算。

※K氏宅は国によるモデル除染を実施済み(2011年12月～12年2月)

5年6か月後の浪江町津島K氏宅周辺の汚染状況

- 浪江町津島K氏宅周辺では柵平馬場牧場付近で $4.34\mu\text{Sv/h}$ 、大柿ダムまんまや前で $5.98\sim 11.98\mu\text{Sv/h}$ 、柵平B氏宅入口で $4.77\mu\text{Sv/h}$ (いずれも地上1m)である。屋外で24時間滞在を仮定すると $38\sim 105\text{mSv}$ /年間の被ばく量に相当する極めて高い線量である。
- 柵平馬場牧場付近では地上1cmで $3.51\mu\text{Sv/h}$ 、1mで $4.34\mu\text{Sv/h}$ と線量率の逆転状況がある。これは地表面(道路側溝)の汚染よりも周辺の森林からのガンマ線の影響が大きいことを示しており、道路、側溝、住宅周辺の除染のみでは線量低下は期待できないことを示している。
- まんまや前駐車場には黒い物質が存在し、サーベイメータは振り切れ(地上1cm) $30\mu\text{Sv/h}$ 以上であった。
- イトヒバの木の根元の土壤汚染は 286万Bq/平方メートル (換算係数65)に相当し、チェルノブイリ事故の基準では「特別規制ゾーン」に相当する。(K氏宅は2011年12月～2012年2月に国によるモデル除染実施済みである)
- K氏宅の屋内リビング、寝室では $0.36\sim 0.55\mu\text{Sv/h}$ (1m高)、 $0.27\sim 0.40\mu\text{Sv/h}$ (1cm高)であった。1cm高より1m高の方が測定値が高い。これは床や床下からの影響よりも屋根や周辺の森林などからの影響を受けていると考えられる。
- K氏宅周辺と室内の空間線量をもとに文科省が被ばく計算に用いている屋外8時間、屋内16時間滞在を仮定して被ばく量を計算すると年間 21mSv 程度の被ばく量となる。(屋内 $0.55\mu\text{Sv/h}$ 、屋外 $6.0\mu\text{Sv/h}$ で計算)

浪江町津島K氏宅室内の放射エネルギー測定

寝室①(1階)換気フィルター
252Bq/36,720時間
風量調査中
(2011年3月15日全町退避で停止2012
年7月～連続運転)



寝室②(2階)換気フィルター
60.2Bq/36,720時間
風量調査中
(2011年3月15日全町退避で停止2012
年7月～連続運転)



玄関換気フィルター
360Bq/36,720時間
風量調査中
(2011年3月15日全町退避で停止2012
年7月～連続運転)

浪江町津島K氏宅内のホコリ調査



土間スチール棚



土間板



リビングテーブル

屋内の家具の天板に堆積したホコリを
ウエットティッシュでふき取り採取
4か所で採取：土間スチール棚天板、土
間板、リビングテーブル、冷蔵庫天板
(写真なし)